第５学年　道徳学習指導案

指導日時　平成１３年　７月　６日（金）５校時
指導学級　５年３組　男１８名女１８名計３６名
指導者　　　　安　　倍　　　豊　　子

１．総合単元名　自然の美しさ、未来に残そう

２．総合単元のねらい

自然の美しさ、大切さに改めて気づかせ、自然を愛し、自分を取り巻く環境を自分のできる範囲で守っていこうとする気持ちを育てる。

３．総合単元について

私たちは、自然界の一員として日々の生活を営んでいる。しかし、ふだんの生活の中で自然の恵みやすばらしさ、偉大さを感じる機会は少なく、環境問題について解決方法を頭の中で考えることはできても、自分自身がどこかで自然を損なう行為をしていることに気づいていない面がある。

このような子どもたちに、自然の持つ美しさや偉大さをもう一度考えさせ、自然環境を大切にしていこうとする気持ちを育てることが大切と考え、総合単元として「自然の美しさ、未来に残そう」を設定した。

本単元では、林間学校や生活の中で見つけた自然の美しさを発見することにより、自然の美しさに改めて目を向けさせ、自分と自然との関わりについて見つめ直させたい。そして「乙女川探検隊」の活動を通して、守っていかなければならない自然があることに気づかせ、本時授業に結びつけていき、授業を通して尾瀬の自然を守りたいという長靖さんの気持ちを十分理解させ、自然愛護の大切さに気づかせたい。そして、それをもとに、事後の学習で自分たちに何ができるか考え取り組ませることにより、自然を守っていこうという気持ちを実践へと広げていきたいと考えた。

４．総合単元の構想

段階	時期	意識の流れ	教科	特別活動	総合的な学習	日常生活	家庭・地域
事前の学習	６月 ２週	・自然っていいなあ。 ・緑がきれい。 ・川がきれい。 ・きれいなところがいっぱいあるな。		林間学校 ◆自然とふれあおう。 ◇自然の美しさに気づかせる。			発見カード ◆きれいな場所・ものをみつけよう。 ◇自然を見つめ直させる。
	３週	・乙女川をきれいにしたな。 ・水沢のいいところ、見つけたよ。			総合的な学習 「乙女川探検隊」 ◆乙女川のクリーン大作戦をしよう ◇乙女川付近の環境について考えさせる。		
	４週	・環境募金に協力しよう。 ・リサイクルは、大切なことだ。				環境保護募金 ◆たくさん集めよう。 ◇保護募金の大切さを考えさせる。	
		・「ふるさと」っていいな。 ・ふるさと「水沢」を大切にしていきたいな。	道徳の時間（１時間） 主題名　ふるさとを愛する　　４－（７）郷土愛・愛国心 資料名　「ぼくのふるさと」 ねらい　郷土の持つ美しさへの感動を大切にして、郷土の美しさを再発見し、郷土を愛する心情を育てる。				
					◆乙女川の環境を調べよう。		
本時の学習	７月 １週	・自然を大切にしていきたい。 ・自然を自分たちで、守っていくことが大切なんだ。。 ・乙女川の自然は大丈夫かな。	道徳の時間（本時） 主題名　自然の美しさ　３－（１）自然愛・環境保全 資料名　自然「尾瀬」を守る ねらい　自然の偉大さを理解し、自然環境を大切にしようとする心情を育てる。				
事後の学習	２週	・自分たちにできることはないかな。 ・できることを探して実行していこう。		学級活動（１時間） 「自分たちにできることを探そう ◆自然を守るためにできることを考え、実行しよう。 ◇身近にできることを考	→		資源のむだづかい０作戦・空き缶回収などを実践していく。

				えさせ、取り組ませる。			

5．本時の指導

（1）主題名　自然の美しさ　（　3－（1）　自然愛・環境保全　）

（2）資料名　「自然「尾瀬」を守る」　（出典：「みんなの道徳」）　学研）

（3）ねらい

自然の偉大さを理解し、自然環境を大切にしようとする気持ちを育てる。

（4）　主題設定の理由

ねらいとする価値について

指導内容・高学年の３－（１）は、「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする」である。この内容は、「自然の偉大さ」への理解を基盤として自然環境を大切にする態度を育てようとするものである。

自然の偉大さは、景観の美しさだけではない。自然が起こす人間の能力を超えたものに対して素直に驚き、謙虚に受け入れる態度も必要であると考える。私たちは、自然の中で生き、自然の恩恵を受けながら生活してきている。ところが、現在の私たちは、そのことを忘れて自然を都合のいいようにつくり変え、環境破壊を引き起こすまでになっている。環境破壊が私たちの人間の産物である以上、子どもたちに環境保全に取り組もうとする心情を育てていくことは、大変重要なことであると考える。

自然に恵まれた地域に住む子どもたちではあるが、遊びの中でも自然と接する機会が次第に少なくなってきている。そのため、自然の恵みやすばらしさ、偉大さを感じる意識が薄いように思われる。また、環境問題について、解決方法を頭の中で考えることはできるが、自分自身どこかで自然を損なう行為をしていることに気づいていない面もある。

そこで、身近な自然とふれあい、その巧みな姿を学ぶことを通して、自然を保全していこうとする心を育て､自分のできる範囲で自然環境を守っていくことの大切さに気づかせていきたいと考え、本主題を設定した。

資料について

本資料は、山小屋を経営している平野長靖さんが美しい尾瀬の自然を懸命に守り通そうとした話である。長靖さんは新聞社を辞め、長蔵小屋の三代目を継ぐために尾瀬に帰ってきた。毎日、何回もゴミ集めをし、登山者のマナーの悪さに心を痛めていた。観光のための自動車道の工事が始まり、尾瀬の開発を喜ぶ村人たちの話を聞いて思い悩む。しかし、工事が進むにつれ、尾瀬の自然が次々と壊されていく場面を見て、尾瀬の自然を守ろうと決意し行動する、とう内容である。

自然の大切さについては、誰もが感じてることであり、長靖さんの気持ちや行動に共感できると思われる。また、尾瀬の自然を実際に命をかけて守った長靖さんの姿から、自然の大切さや守っていくことの大切さに気づかせることができる適切な資料ある。

支援のポイント

「気づく」において

○尾瀬の写真を提示し、その感想を発表させながら、本時への価値の方向付けを図る。

「とらえる」において

○日に何回もゴミを運びだす長靖さんが、尾瀬の自然を心配している気持ちに共感させる。

○自動車道の工事が始まり、開発と保全の両面で悩み、村の人たちの話を黙ってうなずくことしかできなかったつらい気持ちに気づかせる。

○道路工事をやめさせようとする長靖さんの行動から、自分の利益ではなく、自然を守りたいという思いからであることをつかませたい。

「みつめる」において

○自然のありがたさや良さを感じた経験を発表させることを通して、ねらいとする価値に迫りたい。

「あたためる」において

○自然を大切にしている人の話を紹介し、今後の実践への意欲付けを図る。

ねらいとする価値に関する児童の実態

子どもたちは自然は大切なものであることはよくわかっている。しかし、ゴミを捨てたり、植物や動物をむやみにとったり等いけないと思うことを無意識のうちにやってしまっている。また､「自然 」と関わって遊ぶことが減っているため、自然をいつも変わらない存在として気にもとめないでいることが多い。そのため、自然を大切にしようという意識が深まっていないと思われる。

そこで、自然愛護の大切さに気づかせるために、私たちの日常生活は「自然」と共に生きているということを感じさせたい。そして、いろいろな活動を通して自然の大切さに気づかせ、自然を愛し、自然を守っていこうとする心を育てていきたい。

（５）資料分析図

場　　面	登場人物の心の動き	子どもの意識	発問の意図・発問
①新聞社を辞め、尾瀬に戻ってきた長靖さん。日に何回もゴミを運ばなければならない状況に心を痛めている。	（長靖） ・尾瀬の自然が好き。 ・ごみがふえている。 ・悲しい。	・おとうさんの後を継ごうと思ったんだな。 ・尾瀬が好きなんだな。 ・尾瀬の自然を大切に思っているんだ	・新聞社を辞めて尾瀬に戻ってきた長靖さんの尾瀬を愛する気持ちに気づかせ、汚されていく尾瀬を悲しく思っている気持ちに共感させる。 ○長靖さんは、どんな気持ちで、ゴミのかたづけをしていただろう。
②村の人たちは工事が行われることを喜んでいる。村の人たちの話に黙ってうなずくことしかできなかった長靖さんだったが、尾瀬の自然がどんどん痛めつけられていっている様子を見て知っているだけに、工事をやめさせたいと思い悩む。	・工事が始まり、村の人たちは喜んでいるが､､､。 ・たくさんのお客さんに来てほしい。 ・尾瀬の自然が痛めつけられるのはいやだ。 ・尾瀬のすばらしい自然がなくなっていく。 ・すぐに工事をやめさせたい。	・尾瀬の自然のすばらしさをたくさんの人に知ってほしいのかな。 ・村の人たちの生活が楽になるのかな。 ・尾瀬の自然が壊されていくのは悲しいな。	・長靖自身も山小屋の経営者である立場もあり、思い悩む長靖さんの気持ちについて考えさせる。 ○長靖さんは村の人たちの話をどんな思いで聞いていたのでしょう。
③すさまじい工事の様子を見ていた長靖さんは、工事をやめさせようと決意し、活動を始める。	・便利になるのはよいが、自然をこわすことはできない。 ・尾瀬の自然を守りたい。 ・絶対に工事を中止させるぞ。 ・すばらしい自然を残すことが私たちにとって大切なことなんだ。	・鳥たちがかわいそう。 ・泉も涸れて残念だ。 ・大きな木なのにもったいないな。 ・尾瀬の自然をこわしたくない。 ・工事をやめてほしい。 ・尾瀬の自然を守りたい。	・観光客が増える良さはわかっていても、自然を愛護しなければと決意し、立ち上がった長靖さんの気持ちをつかませる。 ○「工事をやめさせなければ」と決心したのは、どんな気持ちからだったでしょう。

（６）展開

段階	学　習　の　流　れ	予想される児童の反応	評価の観点と支援の手だて
気づく ５分	１　尾瀬の紹介をする。	・きれいなところだな。 ・行ってみたいな。	・写真を提示し、尾瀬の自然を感じ取らせ、価値への方向付けを図る。
とらえる ２５分	２　資料「自然「尾瀬」を守る」を読み、話し合う。 日に何回もゴミを運び出す長靖さんは、どんな気持ちだったでしょう。 長靖さんは村の人たちの話をどんな思いで聞いていたでしょう。 「工事をやめさせなければ」と決心したのは、どんな気持ちからでしょう。	・どうしてゴミを捨てるのだろう。 ・たくさんの人が訪れてくれるのはうれしいが困ったな。 ・がんばってきれいにしよう。 ・便利になるだろうな。 ・反対といったら、村の人たちは怒るだろうな。 ・尾瀬の自然が壊されていくのは見ていられない。 ・尾瀬の自然を守りたいな。 ・便利になるのはよいが、自然を壊すことはできない。 ・絶対に工事を中止させたい。 ・尾瀬の自然を守りたい。 ・すばらしい自然を残すことは大切なことなんだ。	・新聞社を辞めてまで、尾瀬にもどってきた長靖さんの尾瀬を思う気持ちに気づかせる。 ・日に何度もゴミを運び出し、汚されていく尾瀬を悲しく思っている気持ちに共感させる。 ・生活の豊かさと便利さを望む村の人たちの気持ちをおさえる。 ・開発と自然愛護との立場で思い悩む長靖さんのつらい気持ちをつかませる。 ・いてもたってもいられなくなった長靖さんの気持ちに気づかせる。 ・美しい自然を守りたいという気持ちに迫り、ねらいとする価値に迫らせたい。
みつめる １０分	３　本時の価値に照らして、これまでの自分の生活を振り返る。 今までに、自然を大切にしなければならないと思ったことはありませんか。		・自然に感動し、その美しさを失わせたくないという気持ちになったことはないか振り返らせる。 ◎本時の価値を今までの自分に照らし合わせて、自分を見つめることができたか。 （道徳ノート）
あたためる	４　教師の話を聞く。		・自然を大切にしている人の話を紹介し、今後の実践への意欲づけを図る。

５分			

5　板書計画

尾瀬

写　真

写　真

自然「尾瀬」を守る

平野長靖

長蔵小屋の三代目

リヤカーでゴミを運び出しながら

・どうしてごみをすてるのだろう。
・たくさんの人が訪れるのはうれしいが・・
・がんばってきれいにしよう。

だまってうなずくだけ

・便利になるだろうな。
・反対といったら村の人たちは怒るだろうな
・尾瀬の自然がこわされていく。
・尾瀬がゴミだらけになるかも。

工事をやめさせたい

・植物や鳥のすみかをうばってはならない。
・自然をこわすことはできない。
・尾瀬の自然を守りたい。

自然

大切なもの
残していきたい
守っていきたい

8　道徳ノート

道徳ノート

名前

自然「尾瀬」を守る

★今までに、自然を大切にしなければと思ったことはありませんか。
それはどんなことでしたか。

★今日の学習の感想

★学習の振り返り

たいへんよい	よい	もう少し